

今回のテーマは、特別支援教育についてです。

川井先生が、メンターとなり特別支援学級担任として心がけていること、ご自身の経験されたことなどについてお話していただきました。

ユニバーサルデザインとは？

障害の有無や年齢・性別の違いなどにかかわらず、すべての人の快適さや、便利さを考えていこうという考え

ユニバーサルデザインに基づく授業づくりにおける支援について

- ① 環境の工夫
 - ・教室前面には、できるだけ掲示物を貼らない。
 - ・教室を担当の部屋にして、机上や周りに余計な私物は置かない。(すっきりと)
- ② ゴールと学習の手順を明確に
 - ・今何をするのか、次何をするのか、どうなれば終わりか見通しを持たせ、学習の手順とゴールを示す。
心理的な安定と落ち着きを促す
適切な課題と量
- ③ 視覚支援
 - ・視覚にうったえると、理解しやすく、忘れにくい。例) 絵カード、文字カード、実物など
- ④ 指示は簡単・明瞭に
 - ・一度にたくさんの指示は混乱するため、単純で明瞭な指示をする。
「雨が降っているので、体育は外ではしません。」→「雨だから、体育は体育館でします。」
- ⑤ 温かく見守る
 - ・叱られたり、失敗の経験が多いと、自尊感情が低下するため、失敗や間違いの指摘が多くならないように褒める。
「叱る」→少なく、短く
「褒める」→タイムリーに！ 具体的に！ 何度も！ さりげなく！

* 特別支援学級担任として心がけていること *

『やさしく (優しく・易しく)』

- ・児童の気持ちに寄り添う
- ・頑張りを褒める
- ・共に喜び合う
- ・スモールステップでのチャレンジ→達成感へ

『ていねいに』

- ・ていねいな介助
- ・児童の動きを最後まで見届ける。

『しっかりと』

- ・実態把握をする
- ・児童のニーズに合った指導計画 (PDCAを回す)
- ・保護者との連携

今回、お話していただいたことは、すべての児童に対して大事にしていきたいことです。ユニバーサルデザインの視点で授業づくりや児童への支援をしていきましょう。

気になる児童について管理職に相談、全職員で情報共有し、必要に応じて関係機関や保護者と連携していくことも必要です。

<メンティーの振り返り>

- ・すべての児童に優しく、易しく接していくことを心がけていきたいです。
- ・Aさんとかかわりの話を聞いて、困ったときは、一人で悩まず、専門機関や他の先生方に相談しようと思いました。
- ・児童の頑張る姿を褒めていくと、成果にもつながったり、やる気にもつながったりするので、積極的に褒めていきたいと感じました。
- ・視覚支援をどんどん取り入れて視覚にうったえて分かりやすい「やさしく ていねいにしっかりと」を心がけた授業をしていきたいです。

川井先生、ありがとうございました！